

Wilson

NUMBER 1 IN TENNIS*

INTERVIEWS

2009 WILSON FREE PAPER

PICK UP

- ・R・フェデラー生涯グランドスラム達成
- ・特別対談「圭 vs 翔」
- ・次は君だ!!

デルポトロ / ツォンガ / シルステア

JULY 2009

No.3



名実ともに史上最強王者に！ローランギャロスで遂に達成！！

これが、ロジジャー。

2009 FRENCH OPEN CHAMPION ROGER FEDERER

CAREER GRAND SLAM WITH 14 TITLES

生涯グランドスラム達成

(史上6人目)

グランドスラム・タイトル数No.1

(サンプリウスと並び14個)



フレンチオープン前、[favorite] (優勝候補)として各国メディアの中で話題の中心だったのは、ナダル(スペイン)とジョコビッチ(セルビア)。フェデラー(スイス)の名がそこに挙がることは少なかった。それは、フレンチオープン前のクレイコートシーズンを振り返ると仕方ないことだったと言える。フェデラーは5月中旬のマドリード大会決勝でナダルを破って優勝しているものの、5月上旬のローマ大会では準決勝でジョコビッチに、4月中旬のモンテカルロ大会では3回戦でワウリンカ(スイス)に敗退。一方、優勝候補筆頭のナダルは、モンテカルロ大会、バルセロナ大会、ローマ大会とクレイコート3大会連続優勝。フェデラーに敗れたマドリード大会決勝は疲労の極みにあり、本来のナダルのプレーができていなかった。そして、そのナダルが「最も警戒しなければならない相手」とコメントしていたのがモンテカルロ大会、ローマ大会、マドリード大会でナダルに敗れていたジョコビッチ。

しかし、いざフレンチオープンが始まると、その中で一番先に消えたのもジョコビッチ。3回戦、対コールシュレイバー(ドイツ)戦で「まったくリズムがつかめなかった。特にフットワークが悪かった」とストレートで敗退。

これでナダルの最大の敵が消え、ナダルが前人未踏のフレンチオープン5連覇を達成するための障害がなくなったと思われたが、そのナダルが続く4回戦でソダーリン(スウェーデン)に敗退。この試合、ナダルは3~4本ラリーが続くと明らかに足がフラフラに。試合後「今日は体に力が入らなかった」というナダルのコメントから、疲れが溜まっていたのが原因と当初は考えられていたが、後日、ナダルからヒザを故障していたことが発表された。それにしても、ナダルのフレンチオープン5連覇を阻止したのが、同じく5連覇を目指し達成できなかったボルグと同郷のソダーリンだったというのも皮肉な話だ。

これで俄然、優勝候補として挙がってきたのがフェデラー。しかしフェデラーとて、何の対策もせずフレンチオープンに臨んでいたわけではない。「オーストラリアンオープン以降、ナダルだけでなくマレーやジョコビッチに敗れたのは、ファーストサーブの精度が悪かったため」という分析のもと、オフには何時間も続けてサーブの練習を行った。またクレイコート対策として「ドロップショットが有効的に使えるようになった」と、

自分でも進化しているのを実感していたのだ。事実、フェデラーのドロップショットは見事だった。特にバックハンドは、フェデラーは元々カット気味に伸びのあるバックハンド・スライスを打つため、ドロップショットを打つのか球足の長いスライスを打つのかまったく区別がつかない。

そのようにテニスの完成度をさらに上げてフレンチオープンに入ってきていたフェデラーは、ライバルが次々と姿を消す中、4回戦対ハース(ドイツ)戦、準決勝対デルポトロ(アルゼンチン)戦などで先に2セットを奪われる苦しいゲームもあったものの、4年連続で決勝に進出。その決勝では、ナダルを破って勝ち上がってきたソダーリンにストレートで勝利。これまでグランドスラムでは3回戦以上に進んだことのないソダーリンが相手で、しかもフェデラーは過去ソダーリンに9戦全勝。圧倒的に経験豊かなフェデラーが勝つのは明白だったが、最後のポイントでソダーリンのリターンがネットにかかる、ひざをついてコートにうつ伏せになり、こらえていた感情を露にした。

試合後「すごく長い道のりだった。近くて遠い道のりだった」と語ったフェデラー。確かに、過去3年連続フレンチオープン決勝に進出してきたことを思えば「近く」までは来ていた。しかし、

3年連続でナダルに敗れてきたことを考えれば『遠い道のり』でもあった。

しかし、これまでどうしても勝てなかったフレンチオープンで優勝したことで、とうとう生涯グランドスラムを達成。これは、史上6人目の快挙だ。しかも、これでグランドスラムタイトルは14個。サンプリウスに並び歴代1位の座に就いた。これまでどうしても手に届かなかったフレンチオープンのタイトルを獲得したことで、2つの栄冠も同時に手に入れたフェデラー。決勝戦の試合中、降っていた小雨は表彰式の頃には大粒の雨に変わっていたのだが、それはフェデラーの栄光を祝福するかのような雨だった。

[K]SIX.ONE TOUR 90

こうなると、期待したいのがウィンブルドン。「子どもの頃の夢はウィンブルドンで優勝することだった」と言うフェデラーが、このフレンチに続くウィンブルドンで単独首位となる15個目のグランドスラム・タイトルを手に入れることができるのか？ 非常に楽しみな大会になるのは確かだ。

HEADSIZE(sq.inch) 90
WEIGHT(g) 320
BALANCE(cm) 31.5
THICKNESS(mm) 1.7
LENGTH(inch) 27.0
STRINGS PATTERN 16x19
PRICE(tax-included) ¥36,750

GRAND SLAM SUPER SIX

PRICE(tax-included) ¥9,975

SIZE : 370x760x350mm



特別対談

圭 VS 翔

バドミントン界のスピードスターとテニス界のスーパースターが対面!

日本を代表する二人のアスリートが、初対談!

お互いのスポーツのこと、プレーががけていること、そしてなぜ二人はWilsonのラケットを選んだのか、などについて語ってもらった。

すべては“勝つ”ために。二人が絶対に譲れないもの、それは“パワー”だった。

——まずお二人に伺います。錦織選手はテニス以外で、佐々木選手はバドミントン以外でよく見るスポーツはありますか?

錦織 いろいろなスポーツを見ますね。特にサッカーは小さいころやっていたので、プロのプレーは“すごいな”ということがわかります。また、自分でプレーするのも好きです。あとはゴルフ。こちらはそれほど見ませんが、プレーはします。でもスポーツ全般が好きなので、基本的に何でも見ますね。野球もやっていたのでよく見ます。

佐々木 僕は結構テニスを見るのが好きで、テレビで見たりします。錦織選手の試合も、何度か拝見していますよ(笑)。あとは、今トレーニングしているジムに野球選手、格闘技選手が多いのでよく見ます。一緒にトレーニングしていると、体幹の使い方とか共通する部分があるので、かなり勉強になりますね。

錦織 僕も昔サーブがすごく苦手だったので、野球のピッチャーを真似して練習していたときもありました。体の使い方とかはほとんど同じなので。プロ選手のフォームはすごく参考にしていました。

正直怖い人かと思ってました(笑) (錦織)
テレビで見るより、ガッチリしていますね (佐々木)

——お二人は初対面ということですが、お互いの第一印象を教えてください。

錦織 正直に言っているんですか?(笑) まず写真で見たときはちょっと怖い人だなと(笑)。でも、話をしてみたら全然そんなことはなく優しい雰囲気。プレー中はやっぱり違うんだらうなと思いますけど。

佐々木 錦織選手は思ったより大きかったです。テレビで見ていると、外国選手が大きいので華奢に見えたのですが、実際に会うとすごいガッチリしていますね。ビックリしました。

——お互いのプレーから、何か感じるものはありますか?

佐々木 僕はどちらかというパワーで押していくタイプなのですが、錦織選手の場合は技術もすごい。そういうのがすごく優れていて、世界で戦っているのだなと。学ぶところはたくさんあります。

錦織 僕も、佐々木さんのプレーから学ぶことは多いです。バドミントンってプレーのスピードが速いから、素早くテイクバックしたり、思いっきり打っていったり、コート中を走り回らなければいけないので本当にタフなスポーツだと思います。その中であんなに体を使って、すごい速いスマッシュを打っていくなんて。やはり、佐々木さんの強靱な体が支えているんでしょうね。

佐々木 そうですね。もちろん強い体作りは欠かせないのですが、硬さとしなやかさを身に付けることを心がけています。やっぱり硬い強さだけだと、自分の動きができない時に力が出せずに終わってしまうケースがありますから。パワーで押し切るスタイルではなく、ある程度相手の動きについていながら自分のいいプレーを出していくスタイルじゃないと、試合で自分の調子で打てなかった時、格下の選手にも負けてしまうことがあるので。

錦織 その通りですよ。特に僕はそんなにパワーもあるわけでもないし、背もそんなに高い方ではないので、相手に合わせるプレーというのはかなり大切なことだと思っています。フットワークが一番の武器なので、そこでカバーし、自分なりの戦い方を見つけなければいけないと思います。

——試合中、急に調子が落ちた場合、どのように立て直していますか? 自分なりのやり方などあれば教えてください。

錦織 よくチームスポーツがよかったなと思うときはありますね(笑)。やっぱり自分一人で戦わないといけなし、調子が悪いときも、どうにか自分で立て直さなければいけないので。集中を高めるために深呼吸したりはしますね。それと、テニスはメンタルがかなり重要になってくるので、自己メンタルトレーニングもやっています。このメンタル面の強化は結構重点的にやっていますね。

佐々木 僕は逆に一人でよかったなと(笑)。自分一人でもこんなに大変なのに、ダブルスだと自分のコンディションがよくても、パートナーの調子がよくなかったらダメです。二人がいいコンディションの状態を作るのは難しいなと思って。逆に一人の方が、全部自分にふりかかってくるので、僕は楽です。

——お二人の競技に対するモチベーションはどこから生まれるのでしょうか?

錦織 僕なんかはまだまだトップではないので、モチベーションはいくらでもあります。テニスが好きですし、今ランキングが下がってきていますし、自分が練習してきたショットだったり、得意なショットが決まると嬉しいというのもそうです。でもやっぱり、一番は強い選手に勝つことですね。強い選手に勝って優勝すること、それが最大のモチベーションになってきますね。

佐々木 僕の場合は、バドミントンには世界で本当に強い選手が4人いて、自分のランクはその一つ下。大きな大会の準決勝はいつもその4人が戦う状態なので、自分のクラスの選手はみんなその4人に勝って“トップに入りたい”と思ってやっています。もう、向上心というか、上しか見ていない状況です。国内の試合は、逆に“絶対に負けれない”という気持ちでやっています。

——試合前のジンクスみたいなものはありますか?

錦織 全くないですね(笑)。それよく聞かれるんですけど、多少めんどくさがり屋なところ

もあって、毎回これをするとか、あんまり続かないので特にはないですね。試合前のルーティンは毎日しようと思えますけど。ウォームアップして、グリップテープを巻いて。試合前はいつも同じようなことをするようにはしています。

佐々木 僕も全くないですね。海外へ行く環境も違いますし、ホテルから体育館までの流れが違うので。とりあえず現地に着いてから、同じようなことを毎日していくという感じです。

錦織 佐々木さんは、トレーニングで気を遣っていることはありますか?

佐々木 結構ジムに通っていて、半日ジムに行って半日練習みたいな感じでトレーニングしています。大体合宿に行くとか拘束されるので、それ以外のときはジムの方を重点的にやっていますね。錦織選手はヨガなどもやっているんですよね?

錦織 ヨガは多少やっています。すごい体が硬いので。

佐々木 よくなりました?

錦織 多少ですが、よくなったと思います。

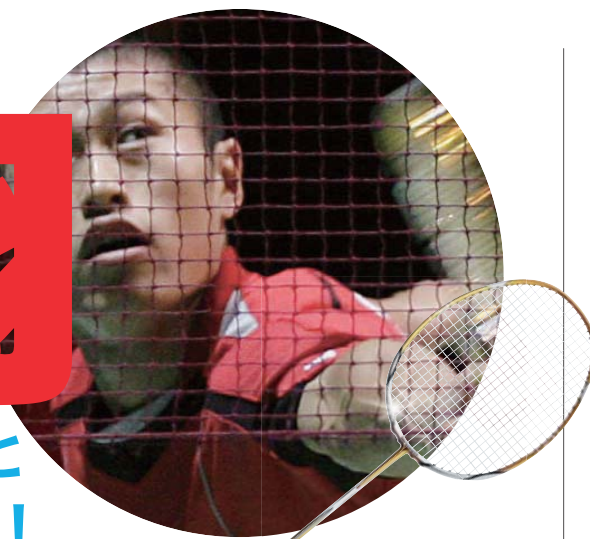
佐々木 錦織選手は世界を回っていて、自分の課題というか、こういう事を考えながらやっているというものはありますか?

錦織 今もケガしているんですけど、そこが一番の課題ですね。体がまだ成長できていないので。そんなマッチョなわけではないし。ケガを何とかなくしていくことですね。そのためには、まずは体を作ること。同じようなことですが、ジムに行って、どれだけトレーニングできるかというのが、今はすごく重要だと思っています。

Wilsonじゃないと勝てない、それが理由ですね(錦織)
(Wilsonを)最初に打ったときの衝撃を、覚えています(佐々木)

——ギアについてのこだわりを聞かせてください。

錦織 やっぱりラケットが一番大事ですね。僕は、絶対にパワーがあるラケットじゃないとダメです。Wilsonのラケットは小学生のと



きから使っていますが、その理由はパワーがすごくあるから。それと打ち心地がいいので、その分体にも負担がかからないし。あとは、どんなボールでもたたけるのが一番ですね。他のメーカーのラケットも、もちろん試打してきましたが、やっぱりウイルソンが自分の中で最もパワーが出るので、そこが一番好きですね。こだわっている部分は、ヘッドです。重くしてスイングスピードが出るように変えています。コントロールより、ほんとうに叩けるラケットが好きなので。

佐々木 僕も鋭く振れてパワーが出るもの、というラケットにこだわっています。シャフトの部分の部分が硬く、バランスポイントがヘッド寄り。ただ、そのようなラケットを使いこなすには、体が強くないと振り抜けないというのがあります。

錦織 全体的に似ていますよね。ラケットへのこだわりもそうですし、体の作り方についてもそうですし。僕は自分が好きなラケットじゃないと、ほんとうにプレーできないので。このラケットじゃないとできない、というのが頭にあるので。とにかく試合に勝つこと、そのためにウイルソンを選んでいます。

佐々木 僕の場合ずっと他メーカーのラケットを使ってきたのですが、ウイルソンのラケットを最初に打ったとき、これまで使っていたメーカーのものとは全然違った衝撃を今でもはっきり覚えています。とにかく飛び方がすごい、というのが第一印象でした。飛距離も強さも全然違うし、スマッシュの速さも全然違ったので。

(お互いのラケットを交換して)

錦織 バドミントンは昔何度もやったことありますが、面が小さいですね。

佐々木 それではちょっと不安ですか？

錦織 テニスとは全く違いますね。

佐々木 これは同じチーム(ナショナルチーム)のメンバーが持つと、「トレーニング用に支給されたんですか？」って聞かれるぐらい、他のラケットより重いんです。

錦織 :今軽いつて言おうと思っていました(笑)。

佐々木 相当重たいんですよ、それ。

錦織 重さはどのくらいですか？

佐々木 普通85から89gぐらいですが、これは95gぐらいです。



錦織 すごく軽くてやりやすいですね(笑)。このストリングは切れますか？

佐々木 毎日やって、3週間ぐらいで切れませぬ。

錦織 僕は1~2日で切れます。ちゃんと練習してれば(笑)。試合では毎試合ストリングは新しいものに張り替えますね。1試合に5本は用意します。バドミントンは切れないから5本持っていくことはないんですね。

佐々木 いや、僕は10本ぐらいは持っています。一回大会に出かけると、3週間ぐらいは出てしまうので切れたときのために。

錦織 1試合に10本ではないんですね。

佐々木 はい。5本ぐらいあれば。汗をかいてグリップが濡れてしまうので。

錦織 そうゆう問題でですね。このタオルグリップ、僕らから見たら、何かおもちゃみたいですよ(笑)。気持ちいい。これ、上の部分、元の素材が丸出しなんですね。

佐々木 グリップの下しか持たないんです。普通はこんなに出していませんが。

楽しみながら上を見てほしい

——最後に二人から、今部活や一所懸命テニス、バドミントンを頑張っている人にメッセージをお願いします。

錦織 僕は小さい頃、試合に負けていたらほぼ泣いていたのですが、そのぐらい負けず嫌いでやってほしいですね。反面、子供の頃は楽しんでやっても欲しかったです。僕自身いやいや練習やっていた時もあったので、そういうのも必要だと思いますけど、基本は楽しんで、夢は大きく持って欲しいです。そうすることで

プレーのバリエーションが増えることにもつながって、次のステップに上がっていけると思います。

佐々木 僕も楽しんでやってもらいたいですね。僕自身も楽しんでやっているし、上を見てやっているの。それはずっと何歳であろうと変わりが無いと思うので、上を見て楽しみながらやってもらえればと思います。

キラリ、金の剣の男。佐々木 翔

1982年生まれ、身長171cm、体重74kg、血液型O型、左利き。クロスファイアーと呼ばれるスマッシュを武器に世界を震撼させるプレイヤー。

彼は北京オリンピックの代表から漏れ、失望を抱えていた。しかし彼は更なる高みを目指し、その夢を叶えるためにWilsonを新しいパートナーに選んだ。

彼のプレーに磨きをかける金の剣[K]BRAVEだ。そして彼は駆け上る。3月の全英オープンでベスト8。続くアジア選手権でベスト4。そして全日本ランキングサーキットでは、第1シードのプレッシャーをはねのけて優勝を飾った。今後の佐々木翔の輝きから目が離せなくなる。

約100年に及ぶテニスラケットづくりで培った経験と実績。

ウイルソンは2006年より、日本市場に向けてバドミントンビジネスをリスタートさせた。

約100年に及ぶテニスラケットの研究・開発で得たノウハウを生かしたバドミントンラケット作りを再開させたのだ。そして2009年、大きな飛躍を遂げようとしている。その代名詞ともなるモデルが「金の剣 - [K] BRAVE」だ。



金の剣 つるぎ

[K] BRAVE

Stock No.	T80902
Price	¥26,250
Face (SQ.IN.)	55
AV.Weight	3U
Grip Size	G4,G5
Av.Balance (cm)	27.5
Length (mm)	674
Maximum Tension	28
Recommended Tension	21-25
Shaft	MEDIUM (普通)
Material	カロファイブ・ブラック
MADE IN CHINA	

(攻撃型) POWER	★★★★★
CONTROL	★★★★★
HANDLING	★★★★★



日本のトップ選手である佐々木翔選手が「僕の武器であるスマッシュの攻撃力を更に飛躍させることが出来る」と絶賛する[K] BRAVEはライバルの攻撃全てを抑え込んでしまうほどの超攻撃的ラケットとして仕上がっている。誰にも負けない剛球を手にしたのなら、とにかく[K] BRAVEを振ってみる!

DRINK FOR VICTORY **Gatorade** ギャロレード

サントリー食品株式会社 サントリーフーズ株式会社 のんだあとほりサイクル

錦織圭「直筆サイン入りグッズ」プレゼントキャンペーン実施中

ゲッターレドのホームページにアクセスして「錦織圭 直筆サイン入りケース付き・ソニー VAIO typeP」を当てよう。

詳しくは >>>>>>>>>>>>
<http://gatorade.jp>
 QRコードが読み取れない方はコチラ！
 応募締切
 7月26日まで





Juan Martin Del Potro

ファン・マルティン・デルポトロ

198cm&多彩なテクニック
新王者への道を
着実に上り続ける若き大器

[K] SIX.ONE 95
[K] シックス・ワン 95
¥34,650

1 年前のフレンチオープン出場時のランキングは68位、しかし今年は5位。驚異的な成長を見せ、このフレンチオープンに乗り込んできたのがデルポトロだ。今回のフレンチオープンでもその勢いは衰えず、3回戦アンドリープ(ロシア)、4回戦ツォンガ(フランス)、準々決勝ロブレド(スペイン)とクセのある選手を次々と破って準決勝進出。

このデルポトロの身長は、公式発表では198cm。しかし4回戦で188cmのツォンガと対戦した際に並んだときの差は、明らかに10cm以上。実は2mを越えているのではないだろうか。何はともあれ、その長身を生かしたパワーが圧倒的なため、

普通に打つだけで相手より有利なの

は確実だ。しかし、心技体のすべてを総動員しなければならぬテニスにおいて、パワーだけでランキングを5位まで上げてくることはできない。その点を踏まえてデルポトロのテニスを見ると、まずテクニックが多彩なことに気がつく。コート内に踏み込んでライジングで打ち返したり、バックハンドでアングルに打ってみたり。また機を見てネットに出たり、ドロップショットを打ってみたり。フェデラーまでとはいかなくても、フェデラーに近いバリエーションを持っているのだ。さらに、高い打点から打ち込むサーブ、バックハンドの高い打点からのダウン・ザ・ラインに叩き込むボールのクオリティはフェデラーをしのぐものがある。そしてメンタル面でも頼もしい。どん

な状況になっても、表情はいつも同じ。この点もフェデラーに似ている。

今回のフレンチオープンでは、準決勝でフェデラーと対戦。第1、第3セットを奪い2セットアップとしたものの、逆転負けを喫してしまった。「最終セットは疲れてきたし、緊張もしていたのでファーストサーブの確立が悪くなった」ため、経験豊かなフェデラーを振り切るができなかったが、勝ったフェデラーが「デルポトロはもっともっと進化してくるだろう。決してあなどれない」と警戒するほどの戦いだった。

「負けはしたけれど、グランドスラムで初めてベスト4に入れたことはうれしい」と語ったデルポトロ。「グランドスラムに勝つには、フェデラーのように観客に応援される選手にならなきゃね」とオンコートだけでなく周囲にも目を配れることにも、王者の素質を感じさせるものがある。

July 5. Center court of Wimbledon is a pleasure.



2 月中旬、ハードコートで行われたマルセイユ大会でジョコビッチを破るなどして優勝したツォンガ。『蝶のように舞い、蜂のように刺す』と形容されるツォンガのプレーは、オーストラリアンオープンでも活躍したように、球足の速いサーフェスでは最大限に生かされる。ボールのほぼ真後ろから叩き込むボールは、狙ったポイントにまっすぐ高速で向かっていく。そのため、少し相手の裏を突くだけでエースが奪えるのだが、球足が遅くなるクレイコートでは、本来エースになるはずのボールが返され、続くショットではツォンガがエラーというケースも増えてくる。本格的にクレイコートシーズンに入った4月以降、ローマ大会1回戦負け、マドリード大会2回戦負けという戦績が続いたのは、そんなツォンガのプレースタイルがもたらした影響のためだ。だからといって、地元フランスで行われるフレンチオープンに、何の対策もせず臨むのはもったいない。ツォンガが選んだのは現在愛用する[K]BLADE TOUR 93とは『違うラケットを試す』こと。「より深くスピンのかかったボールを打ちたい」と考えたツォンガは、ウイルソンのシカゴ本社から

数種類のラケットを取り寄せ試打。その結果、選んだのが、[K]OBRA TOUR 100だ。この[K]OBRA TOUR 100は、1981年にラージラケットサイズの先駆的存在としてテニス界にスピニング革命をもたらした『コブラPWS』の遺伝子を受け継いだ、高いスピン性能を誇るモデル。その[K]OBRA TOUR 100を手に、2回戦モノコ(アルゼンチン)、3回戦ロクス(ベルギー)とクレイ巧者を撃破。これまでは伸びすぎて少しアウトとなっていたボールが、コブラが生み出すスピン性能によりコートに入るようになったことで、自分のプレースタイルを変えないまま勝ち進むことができたのだ。4回戦では伸び盛りのデルポトロに敗退したが、フレンチオープン未勝利だったツォンガは記者会見で「I had more weapons in my racquet」と満足げ。今後、継続してこの[K]OBRA TOUR 100を使うかどうかは未定とのことだが、フレンチオープンではしっかりと

した武器になったことは結果から見て間違いないだろう。



ニューラケットを手に
苦手のクレイで大躍進

[K] OBRA TOUR 100
コブラ・ツアー 100
¥35,700

ジョー・ウィルフリード・ツォンガ Jo-Wilfried Tsonga

フ レンチオープン女子シングルス3回戦、円形スタジアムの1番コートで面白い対戦が行われていた。第10シードのウォズニアッキ(デンマーク)対ノーシードのシルスティア(ルーマニア)。ウォズニアッキは毎年大阪で行われるスーパージュニアのため何度も来日し、同じ1990年生まれ森田あゆみと戦っているのをご存知の方もいるだろう。一方のシルスティアは、まだまだ知られていないが、ウォズニアッキや森田と同じ1990年生まれ。「グラフを見てテニス選手になろうと思った」のは4歳の時だ。この2人の対戦が面白いのは同じ1990年生まれ同士だからだけではなく、シルスティアが2回戦でこれまた1990年生まれの第21シード・コルネ(フランス)を破ってきたことにも理由がある。地元フランスの大声援を受け、ここローランギャロスでは過去2回戦進出2回、3回戦進出1回という好記録を誇るコルネを下してきたシルスティアが、今度はウォズニアッキにどのような試合をするかが楽しみだったのだ。

そして、結果から言うと、シルスティアがウォズニアッキにストレートで勝利する。ウォズニアッキはベースライン上にポジションをとり、速いタイミングでコントロールよく打ち込むストロークが武器なのだが、それに対しシルスティアは体の軸がまったくブレず、腕をしなやかに振り切る男子選手のようなエッグボールで対抗。一目でパワー、安定感でウォズニアッキを上回っているのが明白で、ドロップショットやボレーも織り交ぜるため展開も上。女性ながら[K]BLADE 98を使っているのも、うなずける。これまでグランドスラムで目立った成績がなかったのが不思議なぐらいだが、本人はそこらへんを「ジュニア時代一緒だったウォズニアッキやアザレンカが先にどんどんランキングを上げていたので、追いつけず焦っていたけれど、最近は辛抱強くなり勝利も敗北も同じ



フレンチオープン・ベスト8
ルーマニア美女
シルスティアが大ブレーク

[K] BLADE 98
[K] ブレード 98
¥35,700

ように受け止められるようになって、少しずつ結果が出るようになってきた」と分析している。このウォズニアッキからの勝利はフロックでないことは、続く4回戦で第5シードのヤンコビッチにファイナルセット9-7の激戦の末、競り勝ったことからわかる。この試合、終盤は二人とも足がフラフラだったのだが、「気持を強く持って攻撃的に攻めようと思った」というシルスティアが強打を誇るヤンコビッチに打ち勝つての勝利。続く準々決勝はストーサー(オーストラリア)に敗れたが、このフレンチオープンでの勝ち上がりや糧に安定したメンタルを手に入れれば、技術は高いポテンシャルがあるだけに今後、何度もグランドスラムで上位に食い込んでくるだろう。まずは、ウィンブルドンが楽しみだ。

ソラナ・シルスティア Sorana Cirstea

Wilson
NUMBER 1 IN TENNIS*



wilson-tennis.jp

アメアスポーツジャパン株式会社
[カスタマーサービスセンター]

〒135-0063 東京都江東区有明2-5-7 TOC有明ウエストタワー8F
Tel.03-3527-8731

© 本誌記事の無断転載を固く禁じます



Wilson × 日本旅行コラボレーション企画
『USオープンテニス観戦ツアー2009』

～ 錦織圭選手を応援しよう ～

期間：8月30日(日)～9月5日(土) 5泊7日
ツアー代金：285,000円

ツアー
特典

- ① Wilson契約選手直筆サイングッズが当たるお楽しみ抽選会あり!
- ② 参加者全員にWILSON、USオープンモデル ツアーバックプレゼント! などなど! その他、特典盛りだくさん!!

詳しい資料をご希望の方は、先ずは下記へ資料請求をお願いします!

(お申込みの際は、お送りする資料・下記URLをご確認の上、お申込み下さい)

〒104-0031 東京都中央区京橋1-17-10

(株)日本旅行東京南支店「USオープンテニス観戦ツアー2009」係り 担当:大木田・松永・関

TEL 03-3567-2581 (9:30～17:30) URL <http://apollon.nta.co.jp/usopentennis2009>

WILSONは「USオープンテニス観戦ツアー2009」を応援しています